

2012年6月議会 副市長の選任に対する討論

2012年6月4日

塚本 正弘

私は、日本共産党大津市会議員団を代表いたしまして、ただいま提案されました議案第98号 副市長の選任についての反対討論を行います。

日本共産党大津市会議員団は、既に2月議会での質問で指摘をいたしましたように、住民本位の大津市政を進める上でも、地域の実情に応じた大津市政を進める上でも、これに精通をした副市長を選任すべきと考えており、本議案についてはそれにふさわしいものとは言えないと考えるものがあります。

私は、国や自治体の間での人事交流を一概に否定するものではありませんが、副市長という意思決定の中心を担う役職への配置には慎重であるべきと考えるものであります。大津市は、1985年以来2005年4月まで、6代の助役を建設省、国土交通省から受け入れてまいりました。中央との太いパイプ、補助金や新規事業についての情報の把握や職員への技術的指導などメリットも強調されてまいりましたが、大型公共事業中心の市政を進め、多額の借金を残してきたという側面も否定できません。また、職員や市政の中に、国の方針を守ってさえいればよいという停滞した雰囲気を生み出すおそれがあるのではないかと思います。

2005年以降は、国との人事交流は一般職の統括監という形に変わってまいりましたが、私もそこにも同じような問題点があると考えているものですが、今回の副市長人事は再びかつての助役人事のように、大津市の中枢に中央官僚を迎える体制を復活しようとするものであり、賛成することはできません。自治体らしい大津市政にふさわしい執行体制を求めて反対討論といたします。